

お詫びと訂正のお願い

小社発行の『横浜華僑社会の形成と発展』の記述で、馮鏡如と馮弼卿（郷）を同一人物としておりましたが、別人であることが判明しましたので、関連記述を訂正させていただきます。なお、そのほか訂正が必要な箇所も併せて、訂正表にまとめました。誤りがございましたこと、ここに深くお詫び申し上げます。

ご希望があれば訂正表を郵送させていただきますので、弊社までご連絡ください。
ご迷惑をお掛けして、誠に申し訳ございません。何卒、よろしくお願ひ申し上げます。

株式会社 山川出版社 編集部

訂正表

189頁12・13行目

(誤) 馮鏡如(馮弼卿)は原籍が広東省南海県であるが、香港で生まれ育ち、一八六九年頃に長崎に渡り、大浦八番地に文具を商う店を開いた。その後まもなくして横浜に移り、商売を始めた。

189頁19行目

(誤) 馮鏡如は原籍が広東省南海県であるが、香港で生まれ育った。 ※馮弼卿を削除(馮弼卿と馮鏡如は別人であることが判明したため)

189頁20行目～190頁2行目

(誤) なお、馮鏡如は一八九〇年代から日本製マツチの偽造品を製造販売していた。一九〇九年には故郷南海県で経営する義和公司で、神戸の怡和洋行製マツチと酷似した商標のマツチを製造販売したとして、日中間の商標紛争が起こった。馮鏡如は英国籍を取得しており、日本政府や清朝政府の手の及ばぬ立場を利用したとされる。

(正) 削除

190頁4・5行目

(誤) ……保皇派の機関誌『清議報』の発行兼編集人となり、致生印刷店が発行所となった。一九〇三年に発刊された『新民叢報』も同様である。

(正) ……梁啓超主編の『清議報』の発行に関わり、一九〇二年に発刊された『新民叢報』の発行兼編集人であった。⁽²⁴⁸⁾

191頁13行目

(誤) 総督府国策顧問に就任し、…… (正) 総統府国策顧問に就任し、……

212頁注(24)に追記

The Chronicle and Directory for China, Japan & The Philippines for The year 1874, Hong Kong. Daily Press Office, 1874, p.336. なお、長崎県

立図書館所蔵「明治十一年清民人名戸籍簿」には「馮鏡如」の名前があり、年齢五六歳、原籍番禺県、住所大浦一七番地、職業文墨字函師などとなっている。

馮自由の父馮鏡如とは別人と思われる、同時期の日本に二人の馮鏡如という人物がいた可能性がある。

212頁注(247)に追記

……一、二巻―九号(二〇〇一年)。馮自由『革命逸史』第四集第三版(台湾商務印書館『人文文庫』一九七八年)四四頁。

212頁注(248)

※注の位置を変更。
(誤) 本野英一「光緒新政期中国の商標保護制度の挫折と日英対立」『社会経済史学』第七四卷第三号(二〇〇八年)、同「清末民初における商標権侵害紛争―日中関係を中心にして」『社会経済史学』第七五卷第三号(二〇〇九年)。

(正) 『清議報』第一冊(一八九八年)および『新民叢報』一号(一九〇二年)。なお、馮弼卿について、本野英一「光緒新政期中国の商標保護制度の挫折と日英対立」『社会経済史学』第七四卷第三号(二〇〇八年)および同「清末民初における商標権侵害紛争―日中関係を中心にして」『社会経済史学』第七五卷第三号(二〇〇九年)では、誤って馮鏡如と同一人物としているが、馮瑞玉「馮鏡如『新增華英字典』をめぐる(1)辛亥革命を支えた英国籍の中国人」『月刊

しにか』二二巻―九号(大修館書店、二〇〇一年)および、鴻山俊雄「在日華僑馮鏡如の足跡をたずねて」『日華月報』No.64(一九七二年二月)によれば、

馮弼卿(郷)は馮鏡如の弟である。これは馮鏡如の孫である立松瑞子氏の()指摘によるもので訂正して謝意を表しますとともに、故馮鏡如氏およびその

()親族にお詫びいたします。

訂正表

- 18 頁 17 行目
(誤) ここでは梁啓超ら保皇派の機関誌『新民叢報』が印刷された。
- 23 頁注(34)
(誤) 馮紫珊は梁啓超ら保皇派の機関誌『新民叢報』の編集に関わった。
- 56 頁 14 行目
(誤) 王柏林
- 132 頁注(79)
(誤) 無条約未国人
- 183 頁 4 行目
(誤) ……在留同国人…
- 186 頁 13 行目・191 頁 4 行目・397 頁 3 ～ 4 行目
(誤) 麦小彭
- 188 頁 20 行目
(誤) 中国革命同盟会
- 191 頁 2 行目
(誤) 通算一〇年近くの…
- 193 頁 7 行目
(誤) 支那亡国二百四十年記念会
- 193 頁 16 行目
(誤) 戴天仇
- (誤) 「華僑は革命の母なり」という言葉を孫文は残したが、その一方で、…
- 210 頁注(218)
(正) 孫文の「華僑は革命の母なり」は、実は戴季陶(天仇)の言葉である点、安井三吉氏より(一)教示を受けた。
- 369 頁 6 行目
(誤) 神戸大坂の華僑…
- 409 頁 6 ～ 7 行目、410 頁図 9-5、419 頁注(118)
(誤) 対立競争
- 448 頁 2 行目
(誤) 『横浜貿易新報』
- 468 頁 9 行目
(誤) 小野哲夫郎理事
- 474 頁 12 行目
(誤) 隔和を
- (正) 王柏林
- (正) 条約未済国人
- (正) ……在留同国人…
- (正) 麦少彭
- (正) 中国同盟会
- (正) 通算約六年の…
- (正) 支那亡国二百四十二年記念会
- (正) 戴天仇 ※ルビの修正
- (正) 神戸大坂の華僑…
- (正) 対立競争
- (正) 『時事新報』
- (正) 小野哲夫郎理事
- (正) 融和を…
- (正) 横浜中華街一五〇年―落地生根の歲月